TCの私にできる事

友成　麻理子

【マスターカレッジ受講のきっかけ】
私は、歯科助手という仕事が大好きです。しかし、歯科医療に携わっていくうちに、もっと私にできる事はないのか？歯科助手の私が医院に貢献できることはないのか？と悩むようになりました。
そんな時、院長から「TCという仕事があるんだけど、友成さんに向いていると思う。やってみないか」とお声をかけて頂きました。院長からの期待が嬉しい半面、当時一緒に働いていたスタッフから「TCってなに？休みの日にわざわざ講習に行って習得するほどの仕事なの？」と批判される事もありました。それでも、はつだ歯科の初TCとして活躍したい！院長からの期待に答えたい！と日々奮闘していましたが、心のどこかで「TC＝自費補綴を契約する人」とTCの仕事を感じてしまっており、TCとしてのやりがいを見つけられず、段々とCSをすることに苦手意識を持ってしまっていました。

　そんな私に転機が訪れたのが、昨年他院見学に行った際に、きらきら輝くスーパーTCさんに出会った事です。私と同じTCという役職なのにこんなにも違うのかと衝撃をうけました。どうしたらあなたのようなTCになれるのかと質問すると「マスターカレッジを受講したことで自分が変われた」とマスターカレッジをお勧めしてもらい、すぐに院長へ「受講させてほしい」とお願いをしました。
ただ、マスターカレッジを受講するのは当院で私が初めてであることや、今までは院長からのお声がけでセミナーを受講していたので、初めて自分から行きたいと希望したからには、医院への成果に繋げなければいけないというプレッシャーがありました。受講はしたいが不安があるという事を素直に院長に打ち明けると、「医院への貢献なんて考えなくても、自ら学びたいという気持ちがあるだけで十分意味がある。心配しなくても、きっと受講した後の友成さんはＴＣとして成長していると思うよ」と言って背中を押してくださいました。

【TCレギュラーコースを受講して】
院長の言葉の通り、レギュラーコースを受講するたびに自分がＴＣとして成長できていることを実感しました。
実際にTCとして活躍されている講師の皆様から聞ける講義は毎回が濃厚で、長時間のはずなのに一瞬に感じるほどでした。また、課題として出されるロールプレイマニュアルは「覚えないと」と最初は焦りの気持ちがありましたが、実際の患者様へのCS時にふと暗記したマニュアルの言葉がでてくるようになり、覚えれば覚えるほど自分のCSが良くなっている事に気づきました。ただの「セミナーの宿題」ではなく「自分の為の課題だ」と、毎回実感し「次はどんなロールプレイマニュアルなんだろう」とワクワクしていました。
そして、何よりレギュラーコースを受講し自分自身が成長できた1番の理由は「TCとは、歯科医師・歯科衛生士からの想いのバトンを受け取り患者の心に送り届ける、医院全体はもちろん患者のために貢献できる職業である」とTCの本当の役割を理解できるようになった事です。
また、「生涯カウンセリング」を学んだ事で私たちが行っているのは「自費補綴を契約するための説明」ではなく「患者様の今後の未来を左右する重要な選択の説明」なのだと知り、

CSに自信がないから、患者様が希望しないならCSはやらないなんて患者様に失礼であると気づきました。
役割を理解したことで、あんなに苦手だったＣＳも「私にしかできない重要な仕事だ」と思えるようになり、また、レギュラーコースで学んだ「聴く事」「伝える事」「心を透明にする事」「受容する事」を意識しCSを行うことで、患者様との心の距離を近づけるＣＳができるようになりＴＣとしてのやりがいを感じる事ができるようになりました。

【日本の歯科医療におけるTCの役割】
私は、歯科医院に勤務するまで「歯医者は痛くなってから行くところ」と思っていたし、今まで自分が歯医者でどんな治療をしてきたかも知りませんでした。なぜなら、歯が痛くなったら歯医者に行き、診療室に入ると先生が登場して麻酔をされ治療がスタート。何度か通院をすると、お会計の際に受付のお姉さんが「またハガキ送りますね」と声をかけてくれて虫歯の治療が終わったことを知る。歯医者ってそういうものだと思っていたので疑問にも感じていませんでした。

しかし、歯科で働き始めてすぐに右上のパラInが脱離し、抜髄になるという経験をしました。その時に「もっと歯を大切にすればよかった」と後悔したと同時に、「なぜ私が通っていた歯医者さんは、歯の大切さと保険治療のリスクを知っているはずなのに、私に教えてくれなかったんだろう」「こんなに深いむし歯だったのならセラミックを提案してくれてもよかったのに」と悲しい気持ちになりました。

「すべての患者に診断や治療計画を聞く権利があり、私たちはすべての患者に診断や治療計画を説明する義務がある」
マスターカレッジで学んだこの言葉が私の心に深く刺さりました。
治療方法や健康教育を受けたうえで、患者は自分自身でベストな治療を選ぶ権利がある。日本の歯科医療において、私のような「知らなかった事」で歯を犠牲にし、後悔をする方を1人でも減らしたい。 それがTCの役割であり、歯科医療においてとても重要な仕事であると思います。
ＴＣが世間でもっと認知され、歯科医院には歯科医師、歯科衛生士、歯科助手、ＴＣが当たり前の世の中になる事を目指したい。そして、私がTCになると伝えた際に「TCってなに？休みの日にわざわざ講習に行って習得するほどの仕事なの？」と、当時私に言った彼女にも「TCって素敵な仕事なんだ」といつか届けばいいなと思います。

【スクールでの学びを医院にどう活かせるか】
当院の医院理念は「＋αのサービスを」です。医療従事者として丁寧な医療を提供するのはもちろん、それ以外の価値を＋αで提供し、「この医院を選んで良かった」と患者様の選択を正解にする医院でありたい。という院長の想いが詰まった、私のとても好きな医院理念です。
これまでは、私自身が患者様にできる＋αのサービスを提供する事だけを考えていました。しかし、マスターカレッジを受講しＴＣの役割を理解する中で、ＴＣが活躍する事で院長や衛生士が専門業務に集中できるようになり、更に丁寧な医療を提供する事ができる。そして、患者に寄り添ったＣＳをし、個人満足サービスを提供し「この医院を選んでよかっ

た！」と、患者様の選択を正解にしてあげる。医院理念を実現する事ができるのは私たちＴＣなのだと気づきました。

いつか、「はつだ歯科にはTCがいるから安心」と患者様に言っていただけるような、そして私の姿を見て「こんなＴＣになりたい」と誰かにTCの仕事の魅力を感じてもらえるような、そんなＴＣになれるよう、マスターカレッジでの学びを医院に広げ、活かし、前向きにひた向きに取り組み、患者様に向き合い続けていきたいと思います。

【最後に】
マスターカレッジを受講すると決めた日から不安と期待の日々でした。
しかし、今は受講を決めて本当に良かったと自信を持って言えるほど、学びと成長の多い６か月間でした。
明るく実体験も交えながら講義をしてくださった、鈴木代表、占部先生、スタッフの皆様、マスターカレッジを私に勧めてくださった森さん、一緒に参加してくれた正井さん、皆様に感謝しています。
そして、私を信じ、期待をし続けてくださった院長にも本当に感謝しています。
今まで関わってきてくださった皆様のおかげで今の私がいる事を忘れず、慢心せず、理想のTCになれるよう明日からも学びを続けたいと思います。

3102文字